邦楽はよかったよ

飯田理一朗

46歳、4児の子育てをしている父親です。常日頃、子ども達には自身のアイデンティティに誇りをもって、グローバル社会を歩んでほしいと感じています。

1月28日に市民文化センターで開催された「沼津の音の遺産『駿河土産』のお披露目」で邦楽を鑑賞しました。今まで様々な場所で邦楽に触れる機会はありましたが、恥ずかしながら自身でチケットを購入してまで鑑賞することはありませんでした。

植松家の現当主植松靖博さんから長唄『松の翁』や『駿河土産』の話を聞きつつ、事前に鑑賞されたお披露目曲を「いいものだったよ」と、にこやかに話される姿に、とても引かれるものを感じていました。

初めて聞いたホールでの邦楽。今まで聞いてきたものは何だったのだろうかと思ったほど感動しました。三味線の繊細な音色、鼓の奥行きのある深い響き、のびやかで美しい声。環境が整った場所だったからこそ、感じられたのかもしれませんが、邦楽とは、こんなに豊潤な音楽だったのかと驚きました。

帯笑園と、そこから見える富士山などの眺望を唄った『松の翁』と『駿河土産』。長年唄い継がれてきた名曲と百年二百年唄い継がれてほしいという思いをもって生まれた復曲。「沼津の誇りを感じてほしい」中心的に動かれていた堅田喜代さんの言葉にグッとくるものを感じました。

人間国宝の杵屋東成先生、復曲された杵屋六三郎先生が邦楽の未来について話されていたのも印象的でした。

海外での評価や外国の方からの大きな関心に比べ、日本人は自国の文化に興味を持っていないことを憂いていらっしゃいました。伝統を伝承していく者へ「邦楽はよかったよ」と伝えてほしい。ささやかでありながら重みのある願い。子ども達に伝えていかねばと感じました。

脈々と受け継がれてきた身の回りにある文化は、私達のアイデンティティそのものです。1990年代、そのアイデンティティを最大化した文明という単位で世界を区分し、東西冷戦の二項対立から、多極的な対立へ移行する21世紀の未来を予測したサミュエル・ハンチントン著『文明の衝突』。改めて読み返すと、文明の断層地帯であるウクライナの情勢を不安視していて、彼の願いとは裏腹に予測通り東半分をロシアが吸収しようとしている現状に、ハンチントン氏の洞察力の高さに驚きます。

そんな彼の著書の中で注目するのは、日本という国を「日本文明」と世界で唯一、単一国家でありながら単一文明を形成していると洞察している点です。

ユニークでオリジナルな国、日本。日本語版の刊行に当たり、日本人の私達にこんな言葉を残しています。

「日本の人びとのあいだに文明としての日本の性格、多極的で多文明の世界における日本の地位などをめぐって真剣な議論がうながされることを、著者として希望するものである」

「邦楽はよかったよ！」と子ども達に演奏会の様子と感想を伝え、3月5日、今回と同じく市民文化センターで開かれる「松の翠邦楽演奏会」に誘いました。邦楽という文化に触れ、私の感じたことを少しでも共感してくれれば嬉しいですし、自身のアイデンティティの礎の一つにしてもらいたいと感じています。

沼津市制百周年祝賀プレイベント「松の翠邦楽演奏会」のチケットは市民文化センター（電話933－2059）で発売中。一般2000円、大学生以下1000円です。

多くの方が邦楽の素晴らしさを感じ、伝承していただければと感じています。

（原町中）

教育情報化

0％減）。前年との

6・8％減）。

（同666戸、1・

イエリアで開く。

ト（防寒用）。

申し込みは今日午後5時までに健康づくり課へ電（951－3480）

香り高い珈琲の店
御用邸からの散歩
Café & Gallery
エンジェル
シフォン
ノンオイル
てしおにかけて19年
「シフォンケーキの店」
と、たま～に呼ばれます。

または951－3660。平日の午前9時半から午後5時まで）、またはメール（kenkou@city.numazu.lg.jp）で。

メールの場合は講座名、名前（ふりがな）、生年月日、電話番号（平日に連絡がつくもの）、選時の希望連絡方は電話かメールに記載して送信する。

問い合わせは健課。